

# 五月例会御案内

〔令和元年・通算第三八六回〕

## 時代を刷新する会

### ○御案内

五月十三日(月)十一時半入館可、正午～午後二時半

参議院議員会館地下一階B10三会議室

講師 プーチン大統領の動向分析、日本の対応は？

講師 磯村順二郎先生(アメリカ・ハドソン研究所 参議院議員会館地下一階B10三会議室)

◎ 当月例会では、今年に入り、習近平の中国、金正恩の北朝鮮、文在寅の韓国、それぞれにつき、

わが国トップクラスの専門家をお招きして、その分析・解説をいただきました。

そこで、今回は、プーチンのロシアの動向が気になりますので、アメリカ・ハドソン研究所の

上級研究員として、国際関係の分析をしておられます磯村順二郎先生が、ちょうど在日しておら

れます十三日(月)に、お時間を割いていただきました。

米露両国関係の分析、そして東アジアにおけるロシアの動向について、貴重な分析・御解説が

ありますので、奮って御参加、お待ち申しあげます。(清原記)

□ 当日会費(昼食付き) 会員は三千元、非会員五千元。

### 時代を刷新する会

http://www.jidaisassin.jp

五月十三日(月)の月例会に

出席 欠席 (いずれかに○印を)

電話 03-3272-4320  
FAX 03-3507-8587

御芳名

当日連絡先 080-8836-6203 重田

貴方様のFAX

080-9292-2620 高津

メール

(メール不可・通話のみ)

五月十日(金)までに、出欠の御連絡賜りたく。

### ○御報告

ハノイにおける米朝首脳会談が不成功となり、帰国後の金正恩は核開発とミサイル施設再建へ動いています。また韓国の文在寅は戦時中の徴用工に対する賠償を日本企業に執行する反日政策を強行しつつあり、東アジア情勢は混沌と危険に傾いております。

そうした折なので、去る四月十七日(水)の月例講話会は、「韓国、北朝鮮どうなる、混沌する東アジア情勢」と題して、重村智計先生(朝鮮半島問題研究の専門家、早稲田大学名誉教授、現東京通信大学教授)に御講話をいただきました。

その要点を記しますと、まず、北朝鮮の実力として、GDPは韓国の3分の1程度の約一兆円、国家予算は韓国の百分の一程度で約八〇億円、石油輸入量はわずか七〇万トン程度なので、戦争できる状態にない。米朝第二回目の首脳会談がなぜ決裂したのか？は、トランプの主張が、①核兵器や化学兵器の廃棄、②核施設工場の破壊、③核査察の受入れ、④核科学者の追放、であり、そのすべてが行われた後に制裁解除する、というものであったが、実務者会議で、これら条件が、金正恩には伝えられていなかったようで、トランプからこの条件を突きつけられて、金正恩は何も言えなくなり、トランプへ「時間をくれ」といい、トランプも多少の猶予を与えたようである。

そこで、その後の金正恩の言動をみると、秋までに、朝中首脳会談、朝口首脳会談、そして、南北首脳会談を考えており、また、それまでにトランプとの間で制裁解除の空気を作ろうとして、いるように見える。また、金正恩は、「核兵器の廃棄」に猛反対している軍勢力を抑えるべく、これまでの軍主導から党主導へと移行することに全力を挙げようとしているように思われる。この御解説があった。なお、米韓関係は、四月十一日の米韓首脳会談は僅か数分間であり、そこから、トランプは、文在寅を「北朝鮮の手先」と考えて見捨てており、経済状況も悪く、末期的状態にある等々解説され、重村先生のすばらしい分析力に、一同感銘いたしました。(清原記)

### ▽「時代を刷新する会」とは

「何事も人類・国民のためになることは、時代を先取りして、積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって創設されたシンクタンクです。晩年の岸信介元総理がそうであったように、超党派・超派閥で、真に国を憂える有志によって構成されています。八つの部会と、五、六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府に提出しています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長、第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長の塩川正二郎元財務大臣は、九十歳を機に辞任。第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員、その後、平成二十七年四月から、第六代会長代行として、岸信夫衆議院議員・元外務副大臣、前議員運営委員会理事、現在は衆議院安全保障委員長が引き続き就任しております。

事務局電話(03)3272-4320

専務理事・清原淳平、総務・重田、高津